

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立玉湯中学校）

平成30年9月25日

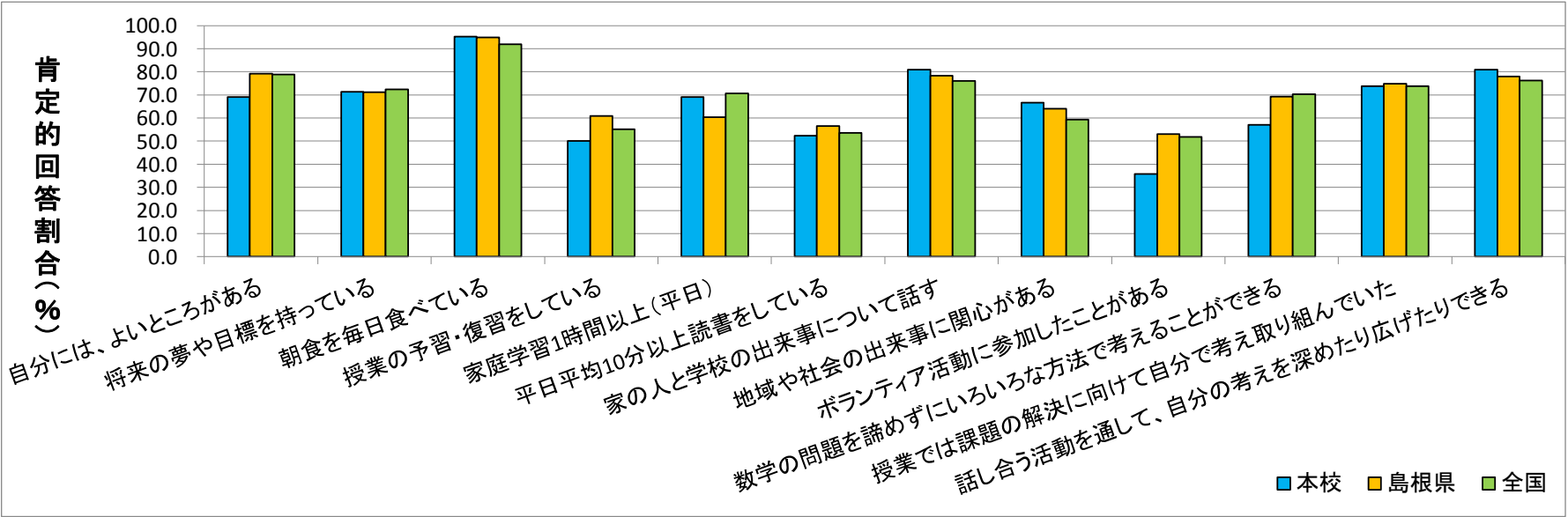
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○毎時間の漢字テスト、学期ごとの漢字テストに取り組んだ結果、漢字の読み書きの力がついてきている。 ●話し合い活動のなかで、話し合いを活発にしたり、話し合いの方向を決めたりする力がまだ十分ではない。	・継続して漢字学習に取り組んでいく。 ・話し合い活動はこれまでも行ってきたが、人の意見を聞いて要約したり、それに対する質問をする場面を意識して設けていく。
	B (活用)	○物語のあらすじや人物像を適切にとらえる問題について正答率が高いものが多い。 ●話し合いにおいて、人の意見を聞いて話の要点をまとめるのが苦手な生徒が多く、無回答率も高い。	
数学	A (基礎)	○毎日の授業における計算の小テストや計算力テストの取り組みを続けた結果、計算問題における平均点は上がってきている。 ●関数、図形分野の苦手意識が高く、基本的な図形の性質や比例のグラフの性質を問う問題でも平均が20点以上低くなっている。	・引き続き、毎日の授業における小テストや計算力テストの取り組みを継続する。 ・関数・図形分野の学習において、生徒が興味・関心を持つような問題、授業内容の改善を行う。
	B (活用)	○授業やテストで繰り返し練習した数と式の分野の説明問題については正答率が上がっている。 ●問題文が長い問題や、初見の問題に対する無回答率が高い。	
理科		○観察や実験の結果をもとに思考して解答する問題について、正答率が高いものがある。 ●基本的な用語などの知識が定着しておらず、正答率が低い問題がある。 ●記述で答える問題で、文頭に続けて答えたり、主述の整った答を書いたりする問題で正答率が低く、無解答率が高い。	・小テストなどをこまめに行い、基礎事項の定着を図る。 ・観察実験レポートの計画や考察を書いたり、課題について自分の考えを述べたりするときの表現方法について習熟を図る。

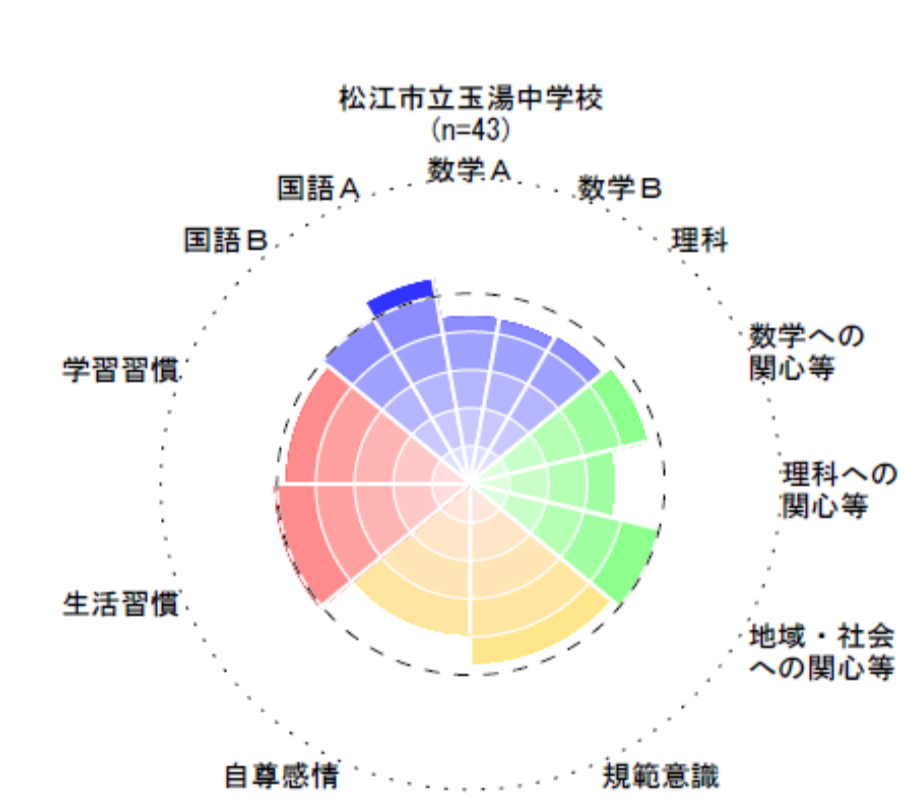
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○話し合い活動は、本校の取り組みとして、数年前からグループでの話し合いや学習活動を推進してきた成果が現れている。 ●自己肯定感が低い。背景として、まわりの人との関係が良好でなかったり、家庭学習の習慣のなさから、学習成績の不振を感じる事があげられる。 ●地域や社会には関心があるが、自分からボランティア活動するには至っていない。	・家庭学習時間を増やしていくための手立てとして、進路目標に向けた見通しを持たせ、学習内容・学習時間について個別支援を行う。 ・Q Uアンケートの結果を活用した個別支援や、お互いの関わり方を磨くグループエンカウンターやアサーショントレーニングを行う。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・授業の中で、ペアや4人グループの小集団学習を取り入れ、思いや考えを伝え合い、関わりあう場を設け、思考力を高めていく。
- ・義務教育学校開設を見据え、9年間のカリキュラムをキャリア教育の視点で見直し等を行い、生徒の目的意識、自尊感情を高めていける、主体的な活動等の充実を図る。

【参考】

○平均正答率		(%)			
国語	A	78	76	76	76.1
	B	61	61	61	61.2
数学	A	60	65	64	66.1
	B	40	46	45	46.9
理科		62	65	66	66.1

受検者数 43 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。